

教育研究所だより
令和2年(2020年)
7月号
(通算229号)

き どう
輝動

(きどう:子どもが輝き、躍動するまち)

近江八幡市教育研究所

TEL 0748-36-5574

FAX 32-3352

メール

044800@city.omihachiman.lg.jp



『コロナから学んだもの』

近江八幡市教育長 日岡 昇

昨年の今頃は、元号が「令和」に代わり、翌年に東京オリンピックを控え、大人も子どもも夢と希望をもって生活を送っていました。そこに昨年末、中国の武漢市で拡大した原因不明の肺炎。瞬く間に全世界に感染しました。いわゆる新型コロナウイルス感染症『COVID-19』です。

本市も年度末の3月には学校や幼稚園を、国の要請を踏まえ、休校(園)させていただきました。その間、教職員のみなさんはもちろん、保護者や地域のみなさまをはじめ、多くの方々にご迷惑をおかけしましたこと、心からお詫び申し上げますと共に、各学校(園)・ご家庭でしっかり対応していただいたことに改めて感謝いたします。ありがとうございました。そんな中、卒業(園)式も①小規模②時間短縮の条件のもと、三つの密を避けるため教職員一丸となって取り組み、立派な卒業(園)式を行っていただきました。子どもたちにとって少し寂しい式だったかも知れませんが、記憶に残る素晴らしい式だったと思います。令和2年度も入学式・入園式のみ行いましたが、その後3月に引き続き休校をさせていただきました。学校・園によって若干異なりましたが、その間何回かの登校(園)日を設け、ようやく6月より再開させていただきました。

「学校(園)で子どもの声がある。」多くの教職員のみなさんは、この当たり前のことが、どれだけ素晴らしいことであるのかを再認識されたのではないのでしょうか。ここへきて感染症もようやく落ち着きを見せてきましたが、まだまだ油断はできません。第2波・第3波は必ず来ます。三密を避けることはもちろん、うがい・手洗い、咳エチケット、マスク着用等、子どもたちの命を守るため確実なご指導をお願いします。

授業時数の確保など、これから夏に向け多くの課題の中でのスタートになりました。子どもたちの中には、長い休校で疲れ切っている子や心のケアが必要な子もいます。本来最も安全で安心な場所であるはずの家庭ですが、子どもがづらい思いをしている家庭も残念ながらあります。教育者として確実にそれらを見極め、適切な対応をお願いします。しかし、ほとんどの子どもたちは、学校の再開を待ち望んでいました。報告によると、行きしぶりや不登校傾向の子どもたちも元気に登校(園)していると聞いています。また自分のことだけでなく、テレビやインターネットを通して社会を見つめる目ができてきた等、子どもたちなりに社会の動きや学校の存在意義・大切さを考えているようです。先日ラジオに寄せられた手紙で、こんなお話をしていました。中学生と父親の会話の中で、息子さんが「世帯主に送られてきた一人10万円の特別定額給付金は、家族で消費しろということなんかな?俺は家族一人ずつが自由につかえということだと思うけどな。」父親は、最近反抗的になってきた息子を見て、仕方ないかなって思いながらこう答えました。「一人一人がコロナ対策として消費してほしいということだと思うよ。」息子は「中学生になってから親に迷惑をかけてばかりなので、コロナ騒動が落ち着いたら、夫婦で旅行してきたら。その時の資金として二人にプレゼントするわ。」中学生らしい口ぶりだったようですが、息子さんもこのコロナ騒動の3か月でたくさんのことを学び、成長したようです。とかくこの3か月は、無駄な期間だったように世間では評価されがちですが、それなりに子どもたちは保護者をはじめ、多くの大人たちの背中を見ながら学習し、成長してきました。そこをしっかりと見極めるのも、教育のプロである私たちの大切な仕事です。私たちもこの3か月で今まで経験したことのないこと体験し、多くのことを学んできました。その学びを今後に生かすことが大切です。

これからの季節は、日本独特の高温多湿の気候になります。ますます指導が入りにくくなりますが、特に医療的ケアの必要な子や基礎疾患等を持っている子についてはご配慮をお願いします。子どもたちの命を守るため、担任の先生だけに任すのではなく、全職員で対応していただくよう心から願っています。

第2回市初任者研修

日時 5月19日(火)

場所 桐原小学校

6月の学校再開直前の開催となりました。まず、日岡教育長より、目の前の子どもの姿だけでなく、その背景にあるものにも目を向けながら、子どもたちが「学校が楽しいところだ」と思えるよう努力してほしいと、励ましの言葉をいただきました。

- 「児童虐待対応」 講師 子ども支援課 子ども家庭相談室 丸本 正晴 室長
- 「生徒指導について」 講師 学校教育課 野阪 健太郎 指導主事
- 「授業研究」 講師 学校教育課 井上 孝平 課長補佐

【参加者の感想】

虐待に関する講話では、家庭との連絡を通して、家庭状況を把握したり、児童の学校での様子を見ながら児童の心の状態を看取る必要があると感じた。

【参加者の感想】

生徒指導という、以前までは事後指導のことばかり考えていたが、今回の講義から初期指導や未然防止も同じくらい大切であると学ぶことができた。また、それらの対応すべてを一人で抱え込むのではなく、可能な限り迅速に報告や相談をするのが好ましいと改めて確認することができた。



【参加者の感想】

授業者は、問いかけた後、じっと子どもの顔を伺い、待つことをたくさんされていた。じっと待って考える時間を作ることで、理解に時間がかかる子どもも落ち着いて頭の中を整理することができると思った。だから、自分が授業をするときも、遅れる子がでないように待つことをしていきたい。



第1回中堅教諭等 資質向上研修

日時 5月22日(金)

場所 桐原小学校

【参加者の感想】

生徒指導とはチームワークだという言葉が心に強く残っています。学級担任という立場だと、学級で起きたことは担任自身が解決していかないといけないという思いがありました。しかし、複数人の教師で向き合うことで、様々な見方・考え方ができるし、そのことによって子ども自身が抱えていることや問題行動などの背景についても深く迫ることができ、より効果的に解決できると考えます。今後は一人で抱えることなく積極的に共有していくことと、若い先生が抱えてしまわないように職場づくりもしていこうと思いました

●「生徒指導の現状と課題」

講師 学校教育課 野阪 健太郎 指導主事

●「児童虐待対応」

講師 子ども支援課 子ども家庭相談室 丸本 正晴 室長

【参加者の感想】

児童虐待によって傷ついた子どもの心はそう簡単に消えるものではないと思います。だからこそ保護者の次に長く子どもと関わっている教師が早期に対応していかないといけないと思います。そのためには子どもと教師の良好な関係性が大切だと考えます。まずは学校が安心して過ごすことができる環境であるということ、その雰囲気づくりが大事だと思います。また日頃から子どもとしっかりコミュニケーションをとり、小さな変化にも気付けるようにアンテナを張っていこうと思いました。



第1回人権教育講座

(本市勤務2年次研修)

日時 6月5日(金)

場所 金田小学校



- 「みんなで考えよう 人権感覚」

講師 生涯学習課 国本 遼太 指導主事

【参加者の感想】

普段の子どもたちとの関わりから人権を育んでいくということの大切さを、あらためて実感しました。分かってはいても実際に行動にうつすことは難しいと思っていましたが、もっと自然なところから普段の私の言葉がけや行動から子どもたちに伝えられるものがあるんだと思いました。

第3回市初任者研修

日時 6月25日(木)

場所 武佐コミュニティセンター

- 「特別支援教育について」

講師 学校教育課・発達支援課 古林 純代 副主幹

- 「学校事務と給与制度等について」

講師 桐原小学校 永野 ともこ 主任事務主査

馬淵小学校 矢野 智巳 事務主事

【参加者の感想】

給与制度や学校事務の手続等に関する講義は、とても勉強になった。そのなかでも会計システムは近いうちに使用するため、会計システムの使い方と注意点を知れたことは自分にとって大きな学びだった。

【参加者の感想】

ASD や AD/HD、LD の子どもの特徴を学び、友達関係や学習に困っている子どもをどうやって助けてあげられるのかを考えることができた。ASD や AD/HD、LD の子どもの特徴を聞いていると、自分のクラスの子どもの顔がたくさん浮かんできた。約 1 か月程一緒に過ごしてきて、気になるなと思っていた子に当てはまる項目があり、どんなことに困っているのかがよくわかった。



◆ 講座案内 ◆

夏休みを中心に下記各種講座を開催しますので、ご参加ください。

講座名	開催日時・会場	講師	内容等
教育相談講座	1 7/21(火)15:30~16:30 桐原コミュニティセンター	滋賀県スクールカウンセラー 市教育相談室2 専門員 吉山 宜秀 氏	「不登校支援対策 ~データから見る市内の不登校の現状~」
	2 7/28(火)15:30~16:30 桐原コミュニティセンター		「不登校支援対策 ~市の不登校対応のコンセプトと運用について~」
	3 8/4(火)9:30~11:00 桐原コミュニティセンター		「不登校支援対策 ~事例を通して見る ケース会議の進め方~」
教育講座 特別支援	1 8/6(木)9:30~11:00 金田小学校	びわこ学院大学 教育福祉学部 スポーツ教育学科 教授 小西 喜朗 先生	「困り感を持った子どもたちの理解を指導につなげる ~特別支援教育の視点から考える~」
「ネタの種講座」 保育・授業力アップ講座	1 8/4(火)13:30~15:00 安土中学校	元老蘇小学校校長 甲津 晃弘 先生	「近江八幡市歴史浪漫デジタルアーカイブで 『ふるさと学習』をやってみよう」
	2 8/5(水) 9:30~11:00 金田小学校	幼児課 副主幹 森田 亜沙子 先生	「保育のたまてばこ」
	3 8/5(水)13:30~15:00 桐原東小学校 【※定員 15名】	滋賀県総合教育センター 研修指導主事 澤 寿朗 先生	「子どもが輝く!ICT活用」(タブレット活用)

◆教育研究奨励事業の応募者及び研究主題一覧◆（順不同・敬称略）

種別	研究主題	研究者	所属校園
個人	幼児が心をわくわくどきどきさせる環境構成とは －4歳児の保育実践を通して－	川部 沙椰	桐原幼稚園
個人	本音・本気で仲間と学級を作っていく特別活動 －学級全員の「社会参画」「自己実現」を目指して－	近野 洋平	八幡小学校
個人	読み解く力の育成をめざす授業づくり －学校図書館を活用した実践－	岩田 茉緒	八幡小学校
団体	「新しい生活様式」のもとでの、持続可能な教育課程づくり －子ども理解と、カリキュラムマネジメントの視点から－	代表 石垣 雅也	岡山小学校
団体	いきいきと学びに向かう金田っ子の育成 －自ら学び 仲間と高め合う 体育学習をめざして－	代表 関河 穂高	金田小学校
団体	インターネットを主とした ICT の活用方法及びその環境整備について －児童の学習意欲の向上と家庭学習の充実をめざして－	代表 古本 顕孝	金田小学校
個人	「子ども理解」を基盤にした学習指導の工夫と改善について －「深い学び」を実感できる授業を目指して－	山口 祐季	馬淵小学校
個人	漢字指導における、児童の漢字活用力を高める学習方法の工夫 －習得段階を意識した個別指導を通して－	井狩 香織	老蘇小学校
個人	PDCA サイクルを生かして、課題解決能力の育成を目指した授業改善 －生徒が自ら課題を見つけ、解決する能力の育成－	尾崎 翔太	八幡中学校
個人	考え議論できる授業づくりの基礎基本の定着 －日頃の実践につながる話し合いを目指して－	久郷 剛基	八幡中学校
個人	科学的に探究するために必要な資質・能力の育成につながる 中学校理科の授業改善	遠藤 彰	八幡東中学校
個人	協働実践による若手教師の数学科授業力育成の試み －レパートリー・数学的思考・教材観の視点から変容を探る－	神谷 信広	八幡西中学校
個人	主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した授業改善 －めあての提示と振り返りの充実を図る－	中村 友也	安土中学校



ご応募ありがとうございました。
今年度の奨励代表発表は、本年度教育研究発表大会と次年度の教職員全員研修会（2021年8月予定）の場で行う予定です。

